

2020年3月期第3四半期 決算説明資料

みんなの夢の企業グループ



2020年2月

株式会社NEW ART HOLDINGS



証券コード:7638

1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要
2. 2020年3月期 連結業績予想及びその進捗
3. 2020年3月期 第3四半期 トピックス及び
第4四半期以降の取り組み

1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

2. 2020年3月期 連結業績予想及びその進捗

3. 2020年3月期 第3四半期 トピックス及び 第4四半期以降の取り組み

1

2020年3月期 第3四半期 連結業績
売上高 14,146百万円 営業利益 2,541百万円
⇒売上、営業利益とも過去最高を更新

2

主力のブライダルジュエリー事業が好調持続
⇒売上、セグメント利益(営業利益)とも過去最高を更新
グループ業績を牽引

3

通期連結業績予想に対し、
売上高は76.8%、営業利益は92.4%の進捗

(2)2020年3月期 第3四半期 決算概要(連結)

売上高	14,146	百万円	(前年同期比 +1,821百万円 + 14.8%)
営業利益	2,541	百万円	(前年同期比 +1,032百万円 + 68.4%)

売上高

主力のブライダルジュエリー事業が引き続き好調に推移。

⇒消費増税の影響が懸念されたなか、成長軌道を維持。

海外(台湾、香港、上海)においても既存店舗の売上が着実に伸長。

ヘルス&ビューティー事業(旧 全身美容事業)も前年同期比増加。

⇒webマーケティング強化、来店誘致戦略見直し、既存顧客へのアプローチ強化が奏効。

営業利益

主力のブライダルジュエリー事業の好調持続、全身美容事業の利益大幅改善。

⇒全身美容事業における利益改善への諸施策が奏効。

(WEBマーケティング、新商品・新サービス、顧客アプローチ、化粧品事業)

(3)2020年3月期 第3四半期 業績(連結)

〔金額単位:百万円〕

	2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	増減	増減率
売上高	12,324	14,146	1,822	14.7%
売上原価	4,679	4,708	29	0.6%
売上総利益	7,645	9,438	1,793	23.4%
販売管理費	6,136	6,896	760	12.3%
広告宣伝費	1,692	1,942	250	14.7%
給与手当	1,302	1,369	67	5.1%
営業利益	1,508	2,541	1,033	68.5%
経常利益	1,462	2,532	1,070	73.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	633	1,412	779	123.0%
同上 売上比	5.1%	10.0%	4.9pt	—

売上総利益(粗利)率
62.0% ⇒ 66.7%

売上販管費率
49.8% ⇒ 48.7%

売上高営業利益率
12.2% ⇒ 17.9%

売上高経常利益率
11.8% ⇒ 17.9%

四半期純利益
1,382
非支配株主に帰属
する四半期純損失
△30

(4)セグメント別業績

〔単位:百万円〕

		2019年3月期 第3四半期	2020年3月期 第3四半期	増減	増減率
ブライダル ジュエリー 事業	売上高	8,920	11,439	2,519	28.2%
	セグメント利益	1,852	2,984	1,132	61.1%
ヘルス& ビューティー 事業※4	売上高	2,141	2,273	133	6.2%
	セグメント利益	88	169	81	92.8%
フィンテック 事業※5	売上高	906	317	△589	△65.0%
	セグメント利益	△64	△41	23	—
その他 事業	売上高	359	137	△223	△61.9%
	セグメント利益	59	△38	△98	—
調整額 ※2	売上高	△3	△21	△18	—
	セグメント利益	△427	△531	△104	—

※1 各セグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載。※2 セグメント利益又は損失の調整額は全社費用を計上。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費。※3 セグメント損失は△で記載。※4 「全身美容事業」から名称変更。※5 「アート事業」から名称変更し、従来「その他事業」に含めていた一部の事業を区分変更して計上。(アートファンド関連)

(5)貸借対照表(連結)の概要

〔単位:百万円〕

	2019年3月期	2020年3月期 第3四半期	増減	変動要因
流動資産	11,379	14,776	3,397	◆流動資産 ・現預金 +1,661 ・受取手形及び売掛 △806 ・商品及び製品 +2,516 (うち、アート分 +1,931)
固定資産	3,911	4,214	303	◆固定資産 ・有形固定資産 △119 ・長期貸付金 +367
資産合計	15,290	18,990	3,700	◆流動負債 ・短期借入金 +1,530 ・未払金及び未払費 +142 ・前受金 +260
流動負債	6,945	8,789	1,844	◆固定負債 ・社債 +1,095 ・長期借入金 +185
固定負債	870	2,121	1,251	◆純資産 ・当期純利益 +1,382 ・配当金支払による 利益剰余金 △325 ・自己株式 △418
負債合計	7,816	10,911	3,095	
純資産	7,414	8,079	605	
負債及び純資産 合計	15,290	18,990	3,700	

【主要財務指標】

流動比率 168.1%、固定比率52.1%、自己資本比率 42.5%

1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

2. 2020年3月期 連結業績予想及びその進捗

3. 2020年3月期 第3四半期 トピックス及び
第4四半期以降の取り組み

(1) 2020年3月期 業績予想及びその進捗

連結業績予想に対し、順調に推移

売上高は**76.8%**、

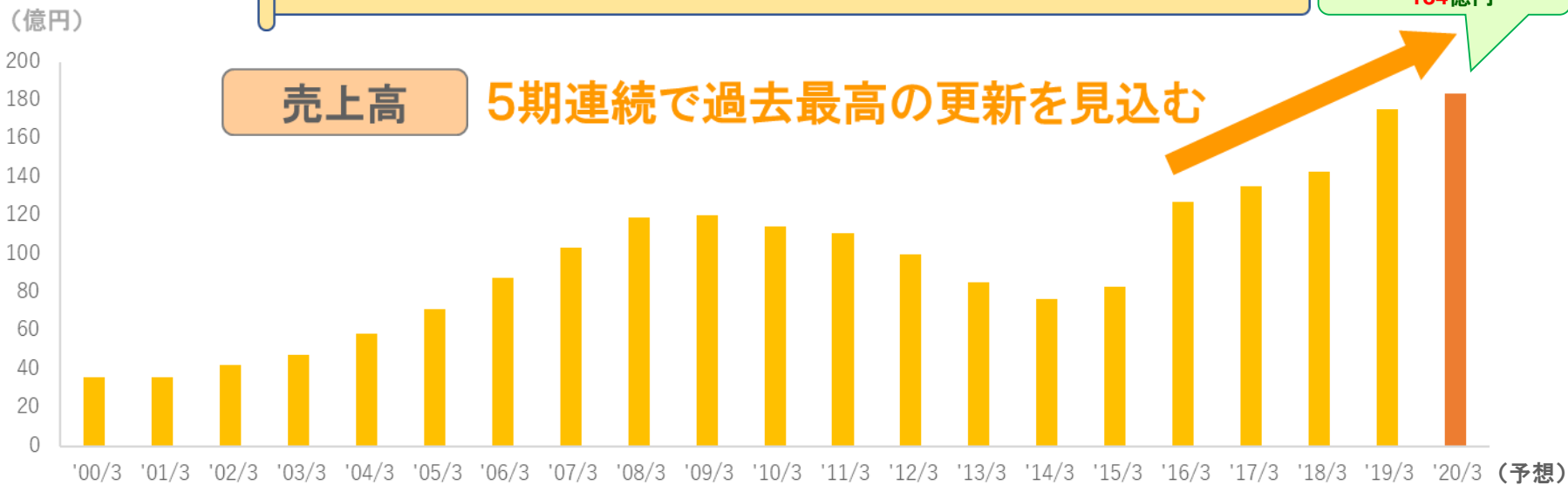
親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益は**79.7%**の進捗

[単位:百万円]

	2020年3月期(連結)		
	第3四半期 累計実績	通期 業績予想	進捗率
売上高	14,146	18,400	76.8%
営業利益	2,541	2,750	92.4%
経常利益	2,532	2,710	93.4%
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	1,412	1,770	79.7%

売上高／営業利益(連結)の長期トレンド

2020年3月期 業績予想
184億円



(3)株主還元

[基本方針]

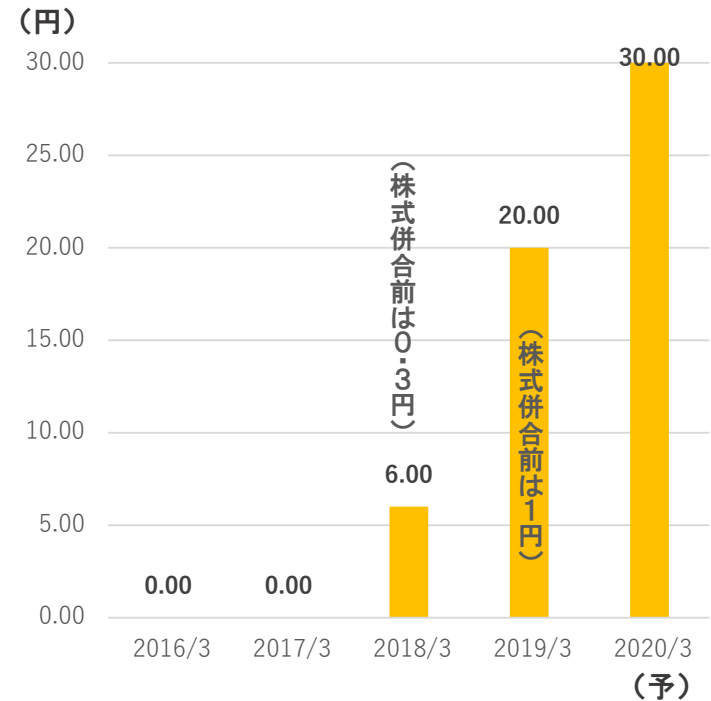
- ・将来の事業規模拡大に不可欠な成長投資を優先し、株主利益及び企業価値の最大化に努める
- ・株主還元については、業績向上による株価上昇と剰余金の配当等によって総合的に実現していく。自己株式取得は、資本効率の向上に資する株主還元策として、機動的に実施していく。

2019年11月11日
 期末配当予想を修正（増配）
 しました。

期末配当金 自己株式の取得

2019年3月期	1円	—
2020年3月期	20円 ⇒ 30円 (予定) ※1	10億円(上限) ※2

1株当たり配当金の推移
 (株式併合後の水準で比較)



※1 2019年10月1日を効力発生日として20株につき1株の割合をもって株式併合を実施しましたので、2020年3月期の一株当たり期末配当金は当該株式併合後の水準で記載しています。

※2 取得期間：2019年5月8日～2020年5月7日。
 発行済株式総数(自己株式除く)に対する割合：11.35%(上限)
 2020年1月末時点での進捗率 41.58% (金額ベース)

1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要
2. 2020年3月期 連結業績予想及びその進捗
3. 2020年3月期 第3四半期トピックス及び
第4四半期以降の取り組み

(1) ブライダルジュエリー事業①



収益性に加えて、売上規模でも
「ブライダルジュエリー業界 No.1」目指し、
さらなるブランド価値の向上へ

国内展開

集客⇒TVドラマ、映画等への積極的な協力、広告宣伝レベルアップ
体制整備⇒接客、応対力のブラッシュアップ(人材教育)
お客さまに常に選んでいただけるブランドへ

カット技術の頂点を極めた「EXELCO」

「アイディアル・ラウンド・ブリリアント・カット」の発表(1919年)から
昨年(2019年)で100年。



海外展開

台湾を中心とするアジアへの積極的な事業展開。

2019年9月 台湾(台中)、香港、中国(上海)に新店舗をオープン。

アジア・パンパシフィック他地域への進出を展望。

(1) ブライダルジュエリー事業②

店舗展開(国内) ~ 最近の店舗紹介



<新統合店舗>

銀座ダイヤモンドシライシ ららぽーと沼津店
 エクセルコダイヤモンド ららぽーと沼津店
 2019年10月 オープン

店舗展開(海外) ~ 最近の店舗紹介



銀座ダイヤモンドシライシ
 新光三越台中中港店
 2019年9月 オープン



銀座ダイヤモンドシライシ上海久光店
 2019年9月 オープン



銀座ダイヤモンドシライシ
 香港 SOGO TST店
 2019年9月 オープン

中長期的な売上拡大・利益率向上への成長戦略 ～利益構造改革～

【1】広告費の費用対効果最大化による収益性向上

- 全身美容／健康痩身を切り口とした新サービスリリース
- Webを活用した高速PDCAによる高品質&ローコスト集客
- メディアや広告に依存しない自社集客(アウトメディア等)の強化



【2】リアルとネットを融合したコスト削減&利益創出

- 会員アプリの導入・活用による顧客の見える化とCRM強化
- 店舗業務のデジタルシフトによる顧客サービス向上
- 店舗(営業)とマーケティング情報を繋ぐリアルタイムシステム



【3】ブランド価値向上＝エステティシヤンの育成強化

- ロイヤルカスタマーと口コミ(良い評判)を生み出す人材・人材教育
- 女性が長く活躍できるキャリアアップ制度の導入
- 業界を跨いだプロフェッショナルのナレッジ活用



“顧客継続こそが高い利益を生み出す”



【4】国内海外への新規出店と物販事業展開

- 首都圏の未開拓エリアへの新規出店
- 国内・海外での販売を視野に入れた新商品の開発
- 台湾・上海を起点としたアジア圏への商品販売展開



“利益率の高い商品の外部販売新規事業”



(3)アート事業・その他事業

フィンテック(アート)事業

- ・2019年10月アートファンド事業を香港で始動
- ・子会社ASIA Contemporary Art Investment Fund Limited設立



NEW
ART
LAB

- 従来の概念でのギャラリーやショップを超越
- 新旧作家を問わず、新しいアートの実験の場として、作品の発表、販売ができる空間

- 軽井沢ニューアートミュージアムの活動支援



その他(スポーツ)事業

「五感に語りかける”美”のパワー」
スポーツ用品を通じて、
《Functional-Art(機能的芸術)》を提供

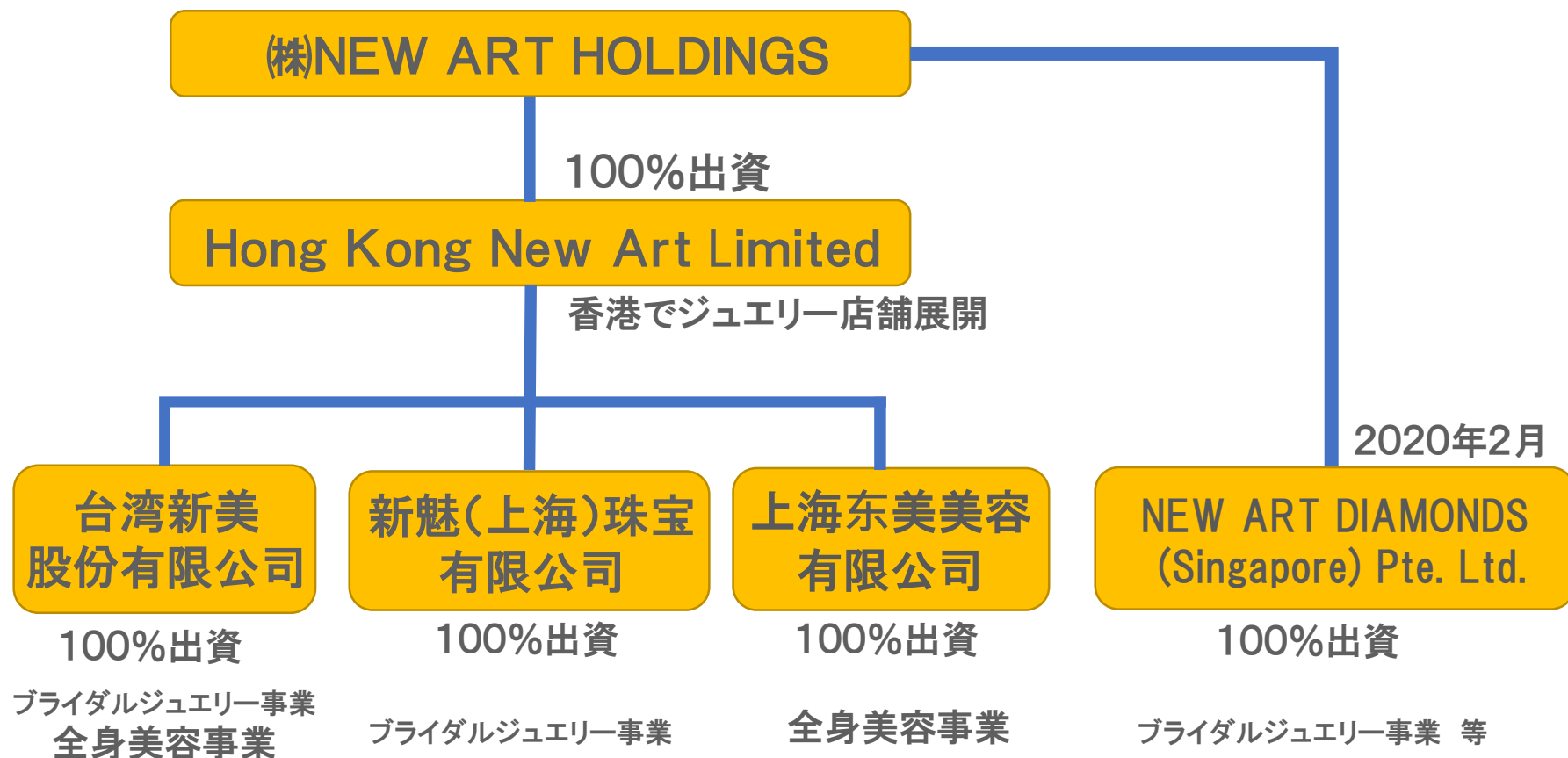


- ・ゴルフクラブ、シャフトの「CRAZY」ブランドを展開
- ・新ブランド「Lindy」を2019年12月にリリース
- ・他のスポーツ事業、領域への進出を展望中

(4)重点施策 海外事業 1/2

NEW ARTは海外展開を加速し、アジア主要市場で上場を目指します

【組織】



(4)重点施策 海外事業 2/2

【香港NEW ART上場への道程】

- 1) 2019年度：香港出店(9/8)、台湾台中出店(9/11)、
上海移転出店(ジュエリーとエステ複合店舗 9/27)
- 2) 2020年2月 シンガポール現地法人設立
- 3) 2021年度までに：台湾5店舗⇒13店舗、香港1店舗⇒4店舗、
上海1店舗、シンガポール2店舗
- 4) 店舗を起点に化粧品事業を展開
- 5) 2022年3月期連結決算数値(売上高30億円、営業利益4億円)
を以って上場申請を目標

【アジアパンパシフィック他地域への進出を視野に入れた展開を企図】
タイ、ベトナム、インドネシア、オセアニア

Appendices

恋愛映画の名手、行定勲監督が描くブランドムービー

何気ない日常の中で起こるふたりの輝くプロポーズ、指輪を握りしめてただひたすら彼女の元へ走る彼の強い想いを描いた前作エピソード1「彼は走っている」篇、エピソード1から過去に遡った、ある日のふたりー彼女の気持ちに気づき「本物の指輪を絶対に渡すぞ」と決意を固める彼を描いたエピソード0「紙の指輪」篇。



中期経営計画

(2020年3月期～2022年3月期)

当社グループは2019年3月期において、2018年6月8日に公表した中期経営計画で掲げた売上高及び利益額の数値目標を2年前倒しで達成いたしました。これに伴い、今期(2020年3月期)から2022年3月期までの3か年を対象期間とした新たな中期経営計画(ローリング方式)を策定し、2019年5月7日に公表したものであります。

(1)中期経営計画 数値目標

利益成長を重視した経営により

2022年3月期 売上高195億円、営業利益 29.5億円を目指す

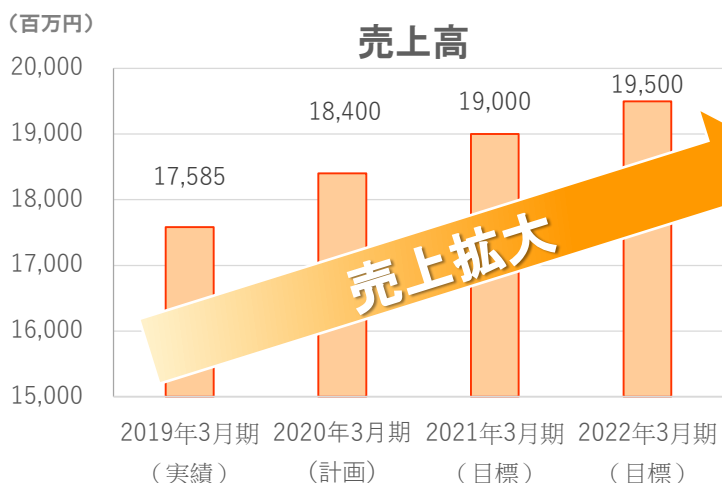
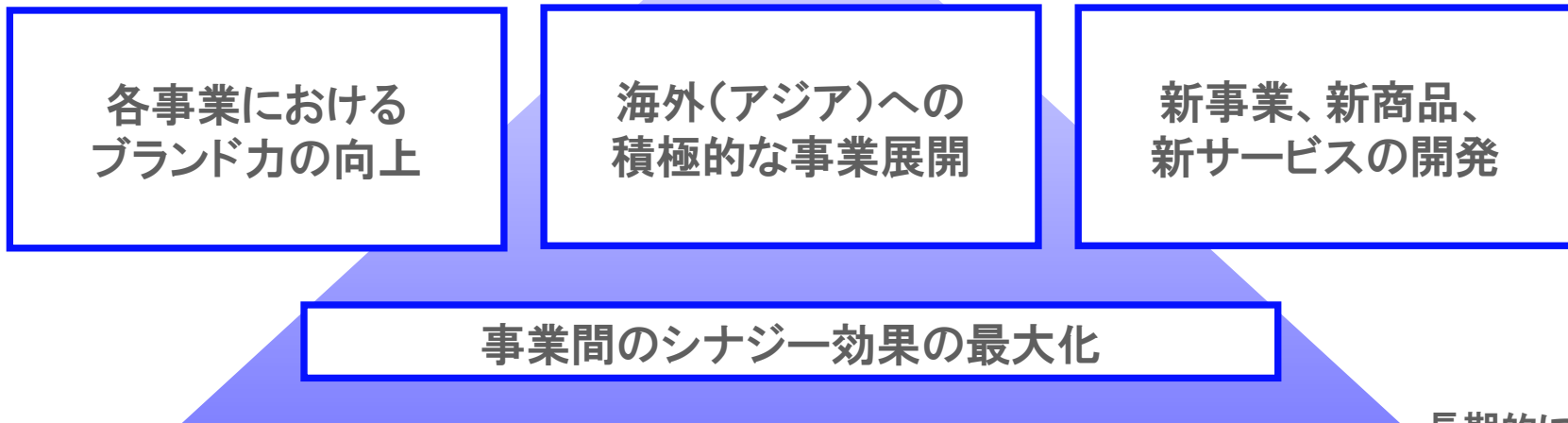
<連結数値目標>

[単位:百万円]

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
	(実績)	(予想)	(目標)	(目標)
売上高	17,585	18,400	19,000	19,500
営業利益	2,526	2,750	2,850	2,950
経常利益	2,388	2,710	2,800	2,900
親会社株主に帰属する 当期純利益	916	1,770	1,830	1,890

(2) 中期経営計画 基本方針

更なる事業の成長と企業価値の最大化





みんなの夢の企業体
NEW ARTは、アートの持てるすべての力で
あなたを美と健康と幸せに導きます

IR情報に関するお問い合わせ

株式会社 NEW ART HOLDINGS 経営企画部

Tel. 03-3567-8098 Fax. 03-3567-8092

(注)本資料における業績予想や将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報にもとづき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。したがって、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。